サッカーW杯観戦、カタール流で　マスクや飲酒どうなる

2022年10月23日日本経済新聞

カタールではスタンドでマスクをしない光景が日常になっている（10月、ドーハ）=ロイター

中東カタールでのサッカーワールドカップ（W杯）開幕まで1カ月を切り、日本のサポーターも渡航の準備を進めている。大会の新型コロナウイルス対策は東京五輪などに比べると大幅に緩和され、期間中は世界から延べ約120万人の来訪が見込まれている。中東でのW杯開催は初めて。ツアー会社などはコロナ対応のほか、制限付きで許可される飲酒など現地のルール周知に努めている。

マスク、観客席では任意

2021年の東京夏季五輪は原則無観客で、22年の北京冬季五輪は海外客の受け入れは断念して開催された。同様に世界規模のスポーツイベントとなる今回のカタール大会では、コロナ対策が様変わりする。

海外からもサポーターを受け入れ、スタジアムの観客数に大きな制限はかけない。国際サッカー連盟（FIFA）によると、観戦チケットの売上枚数は300万枚近くにのぼっている。

観客のマスク着用は、医療機関などの利用時を除き義務付けない。現状では観戦時の着用は任意となる。「ノーマスク」で応援する光景が広がりそうだが、日本ではJリーグが来場者に着用を求めている。邦人サポーターの判断は割れそうだ。

千葉県の自営業男性（59）は日本代表のカラーと同じ「サムライブルー」のマスクを用意して声援を送るつもりだ。現地でも、陽性が判明すれば隔離措置がとられる。「声援の飛沫で感染すればW杯を最後まで楽しめない。リスクを少しでも下げたい」

一方、カタール在住の40代の男性会社員はワクチン接種を3回済ませたことなどから「重症化のリスクは低いと考えているので着用しないと思う」と話す。

21年、カタールで開かれたアラブ諸国の国際大会「FIFAアラブカップ」を観戦した。会場内でマスク着用を求められたものの、観客のほとんどは付けていなかったという。「今は当時より対策が緩和され、着用する人はほぼ見られないのではないか」とみる。

カタールW杯の渡航・滞在時の注意事項	
持ち込み禁止	・酒類、豚製品、性的描写のある書籍など
飲酒	・原則、公共の場は禁止。飲酒できるのは21歳以上。主催側の指定エリアや、一部のホテルや飲食店で可能 ・試合会場への酒類持ち込みは禁止
撮影	・警察と軍に関連した関係者と施設は禁止。空港も控える。特に女性を無断で撮影することはトラブルの原因に
服装	・肩とひざの肌の露出を控える
コロナ対策	・6歳以上の渡航者は陰性証明が必要。ワクチン接種は義務付けない ・医療施設以外ではマスク着用は義務付けない。18歳以上はスマホ専用アプリのインストールが必要

(出所)在カタール日本国大使館のホームページなど

飲酒、制限付きで許可

イスラム圏のカタールでは、観光客は一部のホテルや飲食店を除く場での飲酒が禁止されている。W 杯では特別に、公共の場でのアルコール提供が制限付きで許可される方向だ。在カタール日本国大使館がホームページ（HP）でまとめた注意事項によると、試合前 3 時間と試合後 1 時間に限ってスタジアム隣接の特設会場で提供予定としている。

大会組織委員会の幹部は海外メディアの取材に対し、酔った人を待機させる「酔いざましエリア」を準備する予定と説明した。

飲酒できるのは「21 歳以上」で、日本との年齢の違いに注意が必要だ。入国時のほか、スタジアムへの酒類持ち込みも禁止されている。同大使館 HP では公共の場での泥酔は法律で禁じられているとし、「トラブルになれば身柄が拘束される可能性がある」と警告する。

西鉄旅行（福岡市）が企画する観戦ツアーでは、ツアーに組み込んだ宿泊先のホテルでは酒類の提供が認められていない。同社の担当者は「トラブルを避けるために現地のルールを伝え、飲酒可能な場所を紹介している」と説明する。

交通機関、大混雑の可能性

カタールは秋田県ほどの広さ。全 8 会場は首都ドーハの中心部から数十キロ圏内の「コンパクト開催」となる。ドーハで地下鉄が 19 年に開業し、道路網もさらに整備された。期間中、同国人口の半数程度にあたる延べ約 120 万人の海外客が見込まれるだけに、大混雑も予想される。

「午後 4 時キックオフのドイツ戦でも、午前中にはホテルを出発する」。約 70 人が参加する日本代表の観戦ツアーを予定するパーパスジャパン（東京・渋谷）はこうした事情から、試合当日は余裕を持って会場に向かう予定だ。

海外の報道によると、9 月にカタール最大のスタジアムで行われたサッカー大会では、試合後に帰路に向かう大勢の観衆で混乱が生じた。同社の担当者は「現地情報の把握に努め、ツアー客を安全に移動させたい」と話す。（佐藤淳一郎、石川友理彩）

▼サッカーW 杯カタール大会　1930 年に開催された第 1 回ウルグアイ大会以来、中東地域では初開催。夏の酷暑を避ける目的で異例の冬季開催となった。11 月 20 日～12 月 18 日の日程で、日本を含む 32 カ国が参加する。

新型コロナウイルス感染による欠場などを想定し、1 チームあたりの選手の登録人数は従来の 23 人から 26 人に拡大。選手交代枠も 3 人から 5 人に増やす。